

3D搭載マンモグラフィ装置を導入しました

2017年3月に、マンモグラフィ装置の更新を行いました。

フラットパネル搭載により、従来よりも高画質・低被ばくの画像を提供できるようになりました。

また3D撮影も可能になり、乳腺の重なりによって従来では見えなかった病変が薄くスライスされた再構成の画像を観察することによって、病変の検出がしやすくなっています。

当院では日本乳がん検診精度管理中央機構の施設認定（デジタル）も取得済みです。



トモシンセシス(3Dマンモグラフィ)を受けてみませんか？



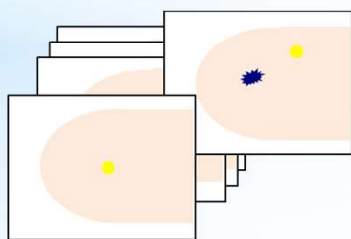
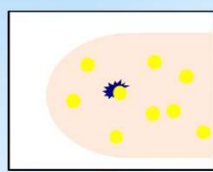
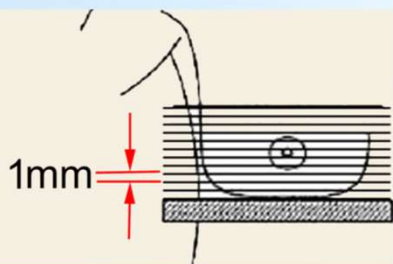
どんな検査なの？

マンモグラフィ装置が動きながら多方向の撮影をおこないます。通常のマンモグラフィ撮影と同時に撮影できますので、何度も乳房を挟むことはありません。

どんなメリットがあるの？

多方向から撮影されたデータを三次元的な再構成をおこない、1mm間隔の断層画像が作られます。

通常のマンモグラフィ画像では乳腺がかさなっていた部分をしっかりと観察できるようになります。



マンモグラフィ画像

トモシンセシス画像

ひばくは増えるの？

ひばくを抑えるためタングステンを使用した装置です。従来のマンモグラフィ撮影もひばくは約30%少なくなります。トモシンセシスを追加してもマンモグラフィ基準の3mGy以内です。